

目次

(1) 新設組織の概要	2
① 新設組織の概要	2
② 新設組織の特色	2
(ア) 服飾造形コース	2
(イ) 家政福祉コース	3
(2) 人材需要の社会的な動向等	3
① 新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析	3
(ア) 服飾造形コース	3
(イ) 家政福祉コース	4
② 中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	4
③ 新設組織の主な学生募集地域	5
④ 既設組織の定員充足の状況	5
(3) 学生確保の見通し	7
① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	7
ア 既存組織における取組とその目標	7
イ 新設組織における取組とその目標	10
ウ 当該取り組みの分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数	12
② 競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）	12
ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、有意性	12
イ 競合校の入学志願動向等	14
ウ 新設組織において定員を充足できる根拠	15
エ 学生納付金等の金額設定の理由	15
③ 先行事例分析	16
④ 学生確保に関するアンケート調査	16
⑤ 人材需要に関するアンケート調査等	17
(4) 新組織の定員設定の理由	18

(1)新設組織の概要

①新設組織の概要

新設組織	入学定員	収容定員	所在地(教育研究を行うキャンパス)
和洋女子大学 家政学部 生活環境学科	110	440	千葉県市川市国府台 2-3-1

開設年度：令和 8（2026）年 4 月 1 日

なお、生活環境学科と近接する学問分野を持つ以下 2 つの既設組織については、2025 年度を最後に、学生募集停止とする。

既設組織	入学定員	収容定員	所在地(教育研究を行うキャンパス)
和洋女子大学 家政学部 服飾造形学科	60	240	千葉県市川市国府台 2-3-1
和洋女子大学 家政学部 家政福祉学科	110	440	千葉県市川市国府台 2-3-1

②新設組織の特色

家政学部生活環境学科では、人間の生活全般に関して衣生活・家庭生活・福祉に関する知識・技能を修得し、持続可能な社会と生活を幅広く深く理解する力を身につけ、感性豊かな生活を創造する力、生活の課題を科学的に理解する力、生活者の視点にたった共生社会を育む総合的な思考力を養成し、身近な生活環境を向上させ、質の高い生活の創造に貢献できる人材を育成することを目的としている。そこで、前述した人材養成目的と教育課程編成の特色を実現するために基幹教員（教授、准教授、助教）18 名を配置する。内訳は、教授 4 名、准教授 9 名、助教 5 名である。コースの内訳は、次の通りである。

(ア)服飾造形コース

服飾造形コースの教員 7 名（構成系 4 名、科学系 2 名、ファッションビジネス系 1 名）は、教授 2 名、准教授 3 名、助教 2 名で、それぞれの専門領域で教育研究をおこなっている。構成系については、洋裁を担当する教員を 3 名、和裁を担当する教員を 1 名配置している。洋裁では、立体構成、CAD、3D モデリングによるパターン作成、縫製を指導し、和裁では、和服の構造や名称、平面構成、浴衣から訪問着の製作を指導している。科学系については、被服材料学、染色加工学を担当する教員 1 名、被服衛生学、機能アパレルを担当する教員 1 名を配置している。ファッションビジネス系では、ファッション業界における企画から販売までを研究領域とする実務系教員 1 名を配置している。以上の領域に教員を配置することで、服飾造形学を総合的に学ぶ体制を整えている。

(イ)家政福祉コース

家政福祉コースは、教員 11 名（家政系 7 名、福祉系 4 名）は、教授 2 名、准教授 6 名、助教 3 名で、それぞれの専門領域で教育研究をおこなっている。家政福祉コースでは、家政と福祉の教育研究に重点を置いている。家政の学びに関しては、モノに関わる、衣生活、食生活、住まいと住環境の 3 領域の教員 5 名と、ヒトに関わるこども、家族、消費生活の 3 領域の教員 4 名、家政系 8 名の基幹教員を配置して、家庭生活を中心とする、生活の科学を総合的に学ぶ体制を整えている。福祉の学びに関しては、社会保障、高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、地域福祉の 4 領域の基幹教員 4 名を配置して、社会福祉学を総合的に学ぶ体制を整えている。これらの布陣から家政福祉コースの重要な学問分野である家政と福祉の研究分野の層の厚さを示すことができる。

(2)人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

家政学部生活環境学科は、society5.0 が目指す未来社会像（国民の安全と安心を確保する持続可能で強靱な社会、一人ひとりの多様な幸せ(well-being)が実現できる社会）を実現するための人材の育成を目指している。

(ア)服飾造形コース

服飾造形コースに関連するファッション領域の人材需要の社会的な動向と想定する就職先は以下の通りである。

アパレルでは環境への配慮が高まる中、サステナブルなファッションを提供できる人材の需要が増加し、エコ素材の知識や、循環型ビジネスモデルの理解が求められている。そこで、サステナブルなファッションに欠かせない CAD や 3D モデリング等のデジタル技術が重要視されている。さらに、アパレルの販売についても e コマースやデジタルマーケティングの重要性が増して、デジタルスキルを持った人材の需要が高まっている。特に、ソーシャルメディアやデータ分析、UI/UX デザインの知識が求められている。AI や AR/VR 技術を活用した新しいショッピング体験の提供が進み、これらの技術に精通した人材の需要も高まっている。特に、データサイエンティストやテクノロジーエンジニアの役割が重要視されている。さらに、社会が多様化しており、消費者も多様性を求める中で、多様なバックグラウンドを持つ人材を採用する動きが増加し、ブランドのメッセージやターゲット市場に合った人材が求められている。

服飾造形コースを学ぶ学生の具体的な就職先として、国内アパレル企業、ブライダル系企業、和服関連企業、海外ラグジュアリー企業、CAD や 3D モデリングを開発する企業、百貨店、ファッション専門店、衣服を取り扱う検査機関、公立、私立の中学校、高等学校の家庭科教員を想定している。

(イ)家政福祉コース

家政福祉コースの家政と福祉に関する人材需要の社会的な動向と想定する就職先に関しては、以下の通りである。

2022年度の文部科学省の統計では、家庭科教員の必要人数は前年度比で約5%増加しており、特に中学校での家庭科の授業を重視する傾向が見られている。家庭科教育は、食育や生活全般における知識の重要性が増しており、特に食に関する教育や健康教育、持続可能なライフスタイルや食の安全などが注目されている。(文部科学省「教育職員免許状の発行状況」「教員人材需給推計」) 全国の中学校での家庭科授業の実施率は2019年度で約90%を超え、食育活動を取り入れた学校が増加している。この背景には、文部科学省による「食育基本法」の推進が関与している。

高齢化社会の進展に伴い、介護と福祉の分野での人材需要が急増している。特に、社会福祉士は地域包括ケアシステムの中でますます重要な役割を担っている。また、災害時や緊急時の支援体制の強化が求められており、地域での福祉支援のニーズも増加している。(厚生労働省の「社会福祉士及び介護福祉士の需要動向」) 厚生労働省の統計によれば、2025年には約38万人の社会福祉士が必要とされている。特に高齢者福祉分野でのニーズが高まり続けている。2021年のデータでは、社会福祉士の就業者数は約15万人に達し、対前年に比べて約4%の増加を示している(「社会福祉士及び介護福祉士の需給見通し」)。地域包括ケアシステムの推進に伴い、都道府県や市町村で地域に根ざした社会福祉士の配属が進んでいる。東京都では地域福祉活動を強化するために、新たに社会福祉士を雇用する方針を打ち出している。日本の労働市場に関する「労働力調査」(総務省)によれば、福祉関連の職業は今後5年間で毎年約3%の成長が見込まれている。

家政系学生と家庭科教諭の就職先の具体的な就職先として、衣・食・住関連企業、金融機関、公立、私立の中学校、高等学校の家庭科教員を想定している。福祉系学生と社会福祉士の就職先の具体的な就職先として、児童、高齢、障害系の福祉系公務員、社会福祉法人、医療機関、福祉系企業を想定している。

②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)―令和2(2020)～32(2050)年―」(資料01)によれば、令和2(2020)年以後の全国総人口は減少傾向となるが、本学の主な出願者エリアである南関東(東京とその周辺県)では、全国の総人口に占める割合は、2025年30.0%、2030年30.7%、2035年31.4%とそれ以降も上昇傾向にあると推計されており、地方のような大幅な人口減はないと予測できる。2040年になると東京都が減少に転じるため影響はあるが、それまでは緩やかな下降となる見込みである。南関東においては、18歳人口に限定した人口予測でも、2025年144,784名、2030年141,776名、2035年136,813名と、同様に緩やかな下降となる見込みである。(資料02)。0歳～14歳人口では、千葉県では2025年678,236名、2030年630,911名、2035年608,328

名と減少するが、本学近隣の主要都市（千葉市・船橋市・市川市・松戸市・浦安市・習志野市）では、2025 年 323,782 名、2030 年 304,199 名、2035 年 297,338 名と比較的に緩やかな下降になる見込みであり、入学定員確保については問題がないと判断した。

【資料 01：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和 5（2023）年推計）－令和 2（2020）～32（2050）年－】

【資料 02：リクルート進学総研 マーケットレポート 2022 Vol.106 2023 年 2 月号】

③新設組織の主な学生募集地域

日本私立学校振興・共済事業団によると、私立大学における千葉県の大学の定員充足率は 2022 年 97.46%、2023 年 95.48%、2024 年 94.52%と緩やかではあるが、減少している。分野別では、家政学部の入学定員充足率は 2024 年では 2023 年よりも 5.23%減少し、83.78%であった（資料 03）。

本学の出願者については、上記②で述べたとおり、主に千葉県を中心とした首都圏（東京都・埼玉県・茨城県）で構成されている。千葉県内の志願者は、2022 年 59.0%、2023 年 61.0%、2024 年 61.6%、次いで東京都で 2022 年 20.5%、2023 年 18.8%、2024 年 17.1%、次いで埼玉県と茨城県がそれぞれ例年 4～6%程となっている（資料 04）。服飾造形学科と家政福祉学科では、千葉県内の出願者は、2022 年 56.7%、2023 年 56.9%、2024 年 56.7%、次いで東京都で 2022 年 17.3%、2023 年 23.0%、2024 年 16.6%、次いで埼玉県と茨城県がそれぞれ例年 3%～7%程となっている（資料 05）。また、千葉県の入学状況は千葉県 38.6%、東京都 16.8%、茨城県 8.3%が上位を占めている（資料 06）。本学の出願者と同等である。従って、千葉県を主とし、東京都と茨城県に注力する必要がある。これらの地域と併せて高大連携の協定校や本学併設校（資料 07, 08）、これまで本学に進学実績のある地方の高校等に学生募集となる広報活動を仕掛けていく。

【資料 03：日本私立学校振興・共済事業団 令和 6（2024）年度私立大学・短期大学等入学志願動向 p10 地域別の動向（大学・学校別） p20 学部系統別の動向（大学）】

【資料 04：都道府県別人数統計表_2022 年度-2024 年度入試結果】

【資料 05：志願者数_高校所在地県別 2022～2024】

【資料 06：別紙 1_新設組織が置かれる都道府県への入学状況】

【資料 07：高大連携事業・高大接続教育に関する協定校リスト（2024 年度）】

【資料 08：大学を核とする高大接続教育推進協議会——和洋女子大学の高大連携プログラム・高大接続教育の取り組み——】

④既設組織の定員充足の状況

本学の既設学部学科の 2024 年 5 月 1 日現在の定員充足状況は以下のとおりである。なお、2018（平成 30）年 4 月から学群を学部、学類を学科に名称変更しているため、学群所属学生は学部、学類所属学生は学科に含めている。（入学者数／収容定員（充足率））

◆文学関係、教育学・保育学関係

人文			国際	
938 名*／960 名 (97.7%)			327 名／480 名 (68.1%)	
日文	心理	こども	英語	国際
426 名／440 名 (96.8%)	277 名／240 名 (115.4%)	232 名／280 名 (82.9%)	153 名／240 名 (63.7%)	174 名／240 名 (72.5%) *

*2020 年度改組以前の人文学部国際学科の学生 3 名含

◆家政関係、保健衛生学関係（看護学関係）

家政			看護
937 名／1,160 名 (80.7%)			407 名／400 名 (101.8%)
服飾	健康	家福	
179 名／240 名 (74.6%)	504 名／480 名 (105%)	254 名／440 名 (57.7%)	

収容定員を満たしていない学部は 3 学部 6 学科となり、カリキュラム改訂を行い、新学部と並行して広報活動を強化していく。特に、収容定員を 7 割切る国際学部については、COVID-19 禍によるアウトバウンド需要が低下し、さらに海外留学等への不安が尾を引いていたため、志願者数が減っていたが、インバウンド需要の急増により、競合校である実践女子大学では 2024 年 4 月から新規開設し志願者倍率が入学定員に対し 2 倍以上あることや、日本私立学校振興・共済事業団の令和 6 (2024) 年度私立大学・短期大学等入学志願動向 (資料 09) による主な学部別の志願者・入学者動向 (R5 と R6 の比較) では、国際学部は 3,933 名志願者数が増えており、国際学分野に学生の関心がまた高まっていると判断し、英語コミュニケーション学科と国際学科の定員を各 10 名減することに留め、この商機を逃さず学生確保に努めたい。

日本文学文化学科については、社会情勢を鑑み安定的に入学者数を確保できるように、定員数を 10 名減とした。心理学科については、資料 10 に記載のとおり、併設校からの要望の増や、ここ数年の入学者の推移を考慮すると今後も入学者確保が可能であると判断し、定員 10 名増とした。

家政学部については、健康栄養学科の志願者数が大きいため、学部として収容定員の 7 割を切ることはない。しかし、直近 5 年間の充足率は服飾造形学科で平均 85%、令和 2 年度の 128%から令和 6 年度には 73%まで低下、家政福祉学科で平均 67%、令和 2 年度の 105%から令和 6 年度には 55%まで低下している (資料 11)。そこで、家政福祉学科と服飾造形学科では令和 8 年 4 月に学生募集を廃止し、魅力あるカリキュラム等に改定した生活環境学科を設置構想し、さらなる学生確保に取り組んでいく。

【資料 09：日本私立学校振興・共催事業団 令和 6（2024）年度私立大学・短期大学等入学志願動向 p26 主な学部別の志願者・入学者動向（大学）】

【資料 10：人文学部心理学科 収容定員増に係る学生確保の見通し等を記載した書類】

【資料 11：別紙 2_既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）】

（3）学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既存組織における取組とその目標

既存組織である服飾造形学科と家政福祉学科では、入試・広報センター事務室、高大連携支援室、各学科の専任教員が連携・協力し、学生確保に向けた取り組みを実施してきた。取り組み及び実績は以下の通りである。

1）高校訪問・出張講義

本学の入試・広報センター事務室と高大連携支援室が中心となり、2024 年度の高校訪問数は 271 校、訪問エリアは、千葉県 156 件(57.5%)、東京 58 件(21.4%)、茨城県 33 件(12%)、埼玉県 23 件(8%)、岩手県 1 件(0.3%)であった。服飾造形学科と家政福祉学科では、過去 3 年間の出願者は平均で千葉県は 56.7%、東京都で 18.9%、2022 年 17.3%、次いで埼玉県と茨城県が例年 12%となっており、出願者状況にあわせて高校訪問を実施している。訪問件数は、2022 年度 477 件、2023 年度 438 件、2024 年度は 270 件である。2024 年度の訪問体制は 12 名で実施している。2025 年度は、訪問要員を 2 名増員の上、訪問件数を 377 件とする目標計画を立てている。

本学の高校からの出張講義依頼を以下に示す。2022 年から積極的に協力し、出張先高校数と参加者人数は過去 2 年間より増加している。内、服飾造形学科と家政福祉学科分については、2022 年 5 件、2023 年 12 件、2024 年 11 月現在で 22 件と増加しており、積極的に協力し学科の教育・研究内容の認知に努めている。2025 年度も積極的に出張講義を行い、今年度と同数以上の実施を目指す。

入試年度	出張先高校数 (カッコ内は服飾造形学科＋家政福祉学科分)	総参加者数
2022	33 (5)	1181
2023	30 (12)	524
2024	56 (22)	1952

2）高大連携

本学では、本学と高校が高大連携事業および高大接続教育の充実・発展を図り、双方の教

育内容と学生・生徒の資質の向上に寄与することを目的に、2019 年に千葉県と東京都の近隣高校 18 校と高大接続教育推進協議会を立ち上げた。2023 年度には、高大接続教育推進協議会を構成する高校は 31 校（29 校の高校及び本学併設高校 2 校）になり、毎年本学を会場に、校長対象の協議会と「総合的な探究の時間」等の中核を担っている教員対象の研修会を開催している。協議会には和洋女子大学の教員も多く参加し、高校と大学が活発に交流している。29 校のうち、本学と高大連携に関する協定を締結した高校は 2024 年 12 月現在 27 校であり、内訳は千葉県内の高校 20 校、東京都内の高校 5 校と本学の併設高校（2 校）である。千葉県内の高校 4 校はオブザーバー校となっており、協定は締結していないが、高大接続のイベントを案内している。本学は高大連携事業を通して、高校生が大学レベルの教育や研究に触れることで意欲や能力を高める取り組みを実施してきている。協定締結校からの服飾造形学科と家政福祉学科への入学者は、2022 年 14 名、2023 年 15 名、2024 年 7 名と 2024 年は減少しているが、一定の入学実績を残している。

2025 年度の目標として、協定校 2 校との協定締結を目指しており、既に協議が進行中である（2025 年 3 月現在）。

3）大学案内や学生募集の資料請求数及び郵送数

服飾造形学科と家政福祉学科の大学案内や学生募集の資料請求、資料請求や DM 等の郵送数を以下に示す。下表のとおり、両学科に対する大学案内やオープンキャンパス、探求講座の案内資料の請求者数や、資料・DM 等の郵送数は、年々増加している。また、資料請求者やオープンキャンパスへの来場者が入学した割合は 80%を超えており、2021 年の 81%から 2023 年には 86%と微増している。資料請求者およびオープンキャンパスの来場者の確保が入学者の確保に重要であることが示唆される。

年度	大学案内等の請求数と郵送数		資料請求に対する入学者数		
	資料請求者数	資料・DM 等の郵送数	資料請求等から入学した人数	全入学者数	入学率
2021	2,010	13,568	77	94	81%
2022	2,635	18,125	89	104	85%
2023	3,490	15,184	92	107	86%

※各数値は服飾造形学科分と家政福祉学科分の合算としている。

※資料・DM 等の郵送数は、総接触者数から各学科の割合を求め、発送数を算出した。

※資料請求等にはオープンキャンパスへの来場者が含まれている。

4）オープンキャンパスの開催

直近 3 年間と 2024 年度のオープンキャンパスの動員数は以下に示す通りである。2022 年

度から開催回数を増加し、動員数は2022年に約2300と増加したが、2023年には約2200と僅かに減少した。2024年度は開催途中であるが、9回が終了した時点で約2300名を動員している。過去3年間と比較して動員数はさらに増加する可能性が高い。オープンキャンパスの動員数には、参加者の学年に変化が見られている。2023年度と比較すると、2024年度は3年生の参加が減少し、1年生と2年生の参加が増加している。特に2年生の増加が顕著であり、志望校を早期に決定する傾向にあることが考えられる。

年度	開催回数	動員数（延べ人数）
2021	8回	1,948
2022	10回	2,383
2023	10回	2,259
2024	9回終了/11回	2,296

※2024年度は11回開催予定の内、9回が終了した時点での動員数

令和6(2024)年度入試対象期間(2023年3月～12月)のオープンキャンパス参加者のうち、服飾造形学科と家政福祉学科の受験対象者(主に高校3年生)は合わせて307名であり、内103名が実際に受験しており、受験率は33.6%である(資料12)。

一方、令和7(2025)年度入試対象期間(2024年4月～)のオープンキャンパスに参加した高校3年生のうち、服飾造形学科と家政福祉学科の志望者は合わせて170名(2024年9月までの人数)であり、内85名(50.0%)が実際に入試出願を行った。この入試出願率を50%から60%に高めることを今後の目標としている。オープンキャンパス情報の早期公開や、説明内容や模擬授業の印象度向上、高校3年生に照準を合わせて入試制度の説明を詳細に行なう等の取組により、目標達成を目指す。

【資料12:別紙3_既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績】

5) 探求講座の開催

本学で高校生を対象に開催している探求講座の、服飾造形学科と家政福祉学科の参加申込数と申込者が入学した割合を以下に示す。申込者の入学率は増加しており、2023年度は入学者の38%を占めていた。探究講座は各学科に関する専門分野の講座が本学を会場として開催されており、学内の設備を使用し大学の研究や教育に触れる機会が入学率の増加に関連していると考えられる。

年度	参加申込数	申込者の入学者数	全入学者数	入学率
2022	105	29	107	27%
2023	83	40	104	38%

6) 進学相談会・大学進学ガイダンスへの参加、入試説明会の開催

進学ガイダンス、相談会および学内見学会に関する直近3年間の実績を以下に示す。2022年から2024年にかけて進学ガイダンスと進学相談会は会場数を増加させ、参加者数も増加している。見学会の欄では本学が開催した学内見学会の実施回数(希望者に対して随時実施したものも含む)と参加者数を示しており、2023年、2024年では、2022年より参加者数が4倍以上に増加している。本学では進学ガイダンス、相談会および学内見学会に意欲的に取り組んでおり、参加者数の合計は、2022年1,485名、2023年1,761名、2024年11月現在1,885名と増加している。

入試年度	進学ガイダンス		進学相談会		見学会	
	会場数	参加者数	会場数	参加者数	実施回数	参加者数
2022	166	1,086	36	371	2	28
2023	197	1,302	33	292	12	167
2024	187	1,425	40	338	5	122

上記数値のうち、受験生獲得の観点で特に重点を置く4月～11月の期間の、高校3年生に限定した人数を抽出すると、2024年度の進学ガイダンス参加者は733名、進学相談会は291名であった。2025年度はそれぞれ1,000名以上、300名以上を目指している。

7) 大学ホームページやSNSを利用した情報発信

本学のホームページは年間約40万アクセスである。SNSでは、LINEの年間登録者数約3,000件、2021年4月1日～2023年3月31日までの配信数は93である。Instagramのフォロワー数は1,439人であり、2021年4月1日～2024年8月の投稿数は1474件であった。Xについては、本学広報用アカウントは2012年6月、本学公式アカウントは2014年3月に開始し、フォロワー数は広報用アカウントが1,608、公式アカウントは1,724である。本学では、ホームページやSNSを活用した情報発信も実施してきている。

2025年度は、受験生獲得において特に重点を置く4月～11月の期間で、LINEの配信数を39件、Instagramの配信数を231件とする目標計画をたてており、実現に向けて尽力する。

イ 新設組織における取組とその目標

高校訪問は今後対応する職員を増やし、訪問校を増加することを予定している。高大連携では、今後も協定締結校を増やすことを目標としており、2025年3月現在協議を進めている2校に加えて、さらに4校と締結を目指すための計画をたてている。高大連携では一定の入学実績があるが、2024年度は入学者が減少しているため、これまで以上に大学と高校

の教育・研究の一層の充実・発展が期待される連携事業や高大接続教育に積極的に取り組み、新学科の認知と理解にも繋げて行く。2025 年度の、服飾造形学科と家政福祉学科の協定校からの入学者は 14 名(2025 年 3 月現在見込み)であり、生活環境学科においてはそれ以上の入学者数を目指している。

オープンキャンパスは、これまで通り 10 回の開催を予定している。前述した通り、オープンキャンパスの来場者と大学案内の請求者では入学率が 80%を超えている。オープンキャンパスの来場者は入学者の増加に有益であることから、動員数を増加させることを目標とする。3 年生よりも 1・2 年生の参加が増加していることから、新学科の説明や広報を早期から積極的に実施し、2026 年度に繋げる必要がある。今後のオープンキャンパスでは、体験授業や教員と在学生との交流をこれまで以上に積極的に導入し、学科の教育内容や校風を、実体験を持って伝えて行く予定である。

体験授業等をこれまで以上に導入する背景には、探求講座の入学実績が挙げられる。前述した通り、探究講座では申込者の 38%が入学している。探究講座が入学者確保に有益である要因の一つに、学内設備を使用し、専門教育や研究、教員や在校生に接触する機会があることが挙げられる。探究講座、オープンキャンパスの体験授業を通して、入学者確保に繋げていきたいと考えている。生活環境学科単体では探究講座の参加定員数を 100 名とする予定であることから、満員である 100 名の参加者確保を目指して広報活動を展開する。

また、学科の理解や認知を広めるだけでなく、進学相談会・大学進学ガイダンスへの参加、入試説明会も積極的に実施し、進学に対する不安や問題の解消を支援し、参加者を増やすことで入学者を増やすことに繋げる予定である。

大学案内や学生募集の資料請求者も入学者確保に深く関連している。従って、これまで通り郵送を行い、大学案内や学生募集だけでなく、オープンキャンパスや探求講座の案内を郵送し、参加を促していく。生活環境学科への資料請求数は、既設学科(服飾造形学科・家政福祉学科の合算)への資料請求数に対して 34%以上の増加を目標としている。

本学のホームページのアクセスは前述した通りであるが、新学科のホームページを立ち上げ、迅速に公開することを予定している。総務省の調査によると、インターネットの利用と目的は、13～19 歳ではホームページの利用率は約 55%であるのに対し、SNS は約 90%である(資料 13)。また、国立青少年振興機構が実施した高校生の SNS の利用に関する調査では、興味や趣味のある話題に関する情報収集を SNS で行う高校生は 82.4%と報告されている(資料 14)。高校生ではホームページより SNS の利用率が高いことから、SNS のフォロワー数の増加が必要である。ホームページと併せて、SNS でも新学科の紹介を実施し、高校生にとって魅力ある学科紹介を在学生の意見も取り入れながら検討し、フォロワー数を増やす取り組みを展開していく。

上記の取り組みを強化するため、新学科の広報活動については、ホームページの特設サイト作成、大学紹介の動画作製、大学案内、学科案内やリーフレットの作製、38 件の進学情報媒体での宣伝、Web・SNS・新聞への広告を予定している。

【資料 13：総務省 令和 3 年版 情報通信白書 p309 年齢階層別インターネット利用の目的・用途（複数回答）（2020 年）】

【資料 14：国立青少年教育振興機構 高校生の SNS の利用に関する調査報告書 p12 利用の目的】

ウ 当該取り組みの分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

本学では今後、高校訪問の件数を年間 100 件以上増加することを予定し、高大連携の協定締結校の増加や連携事業を積極的に実施すること、高校への出張講義も回数と参加者の増加を目標にしている。オープンキャンパスでは動員数が増加しているため、目標としているオープンキャンパス参加者の入試出願率 60%の達成と合わせることで、更なる入学者確保が見込める。今後も増加を目指し、探究講座の開催、進学相談会・大学進学ガイダンス、入試説明会も参加者を増やすことを目標に意欲的に取り組む予定であり、特に探究講座については定員である 100 名満席参加を目指している。また、新学科のホームページ、特に SNS の活用を積極的に推進する。大学案内、学科案内やリーフレットの作製、新聞広告、WebDM の送信、大学の動画作成と公開を予定している。資料請求者とオープンキャンパスの来場者における入学率は 80%を超えており、既存の服飾造形学科と家政福祉学科において 2023 年度は 97 名が入学している。さらに、探究講座においても申込者の 38%、40 名が入学をしている。オープンキャンパスと探究講座に参加した学生が重複していること、2022 年と 2023 年の入学者が約 100 名であること、新学科では新たな特色を広報していくことから、110 名程度の入学は見込めると考えられる。

②競合校の状況分析（立地条件，養成人材，教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、有意性

本学が新設する生活環境学科の競合校には、川村学園女子大学、鎌倉女子大学、東京家政学院大学、実践女子大学の 4 校を選定した。いずれの競合大学も学校種は女子大学（東京家政学院大学は 2025 年 4 月より共学）、定員規模は本学の 440 名に対し 320～380 名、所在地は本学の千葉県に対し南関東（神奈川県、東京、千葉県）と類似している。学力層は、河合塾による 2025 年度難易度予想（資料 15）に記載されている偏差値によると、本学の服飾造形学科が 35、家政福祉学科が BF であるのに対し、実践女子大学が 45 と本学より高いが、鎌倉女子大学は 37.5、川村学園女子大学と東京家政学院大学は 35 と、概ね類似している。学問分野については、学校基本調査の学科系統分類表の中分類は本学と競合大学の両者がその他に該当し、小分類では生活環境学、生活デザインに該当する。

【資料 15：河合塾 私立大 2025 年度入試難易予想一覧表】

本学と競合校では、家政学を基に衣食住の分野を横断的に教育し、生活を創造・デザインする力を養成し、社会に貢献できる人材を育成する趣旨が共通している。しかし、競合校で

は衣食住の分野の横断的な教育と平衡して、衣と住、または食のみに重点が置かれているのに対し、本学では衣食住すべてと福祉に重点を置いている点に優位性がある。さらに、衣食住と福祉を、分野毎だけでなく、組み合わせた科目の設定、本学教員の専門分野を生かした、競合校には設定されていない特色のある科目を設定している。教育方法についても、いずれの競合校もコースや専攻にわけた専門教育は実施されていない。しかし、本学では将来のキャリアや興味に合わせて、服飾造形コースと家政福祉コースの専門分野と多様な科目の教育が選択できる自由度の高い柔軟な教育課程を設定している。これらの教育課程から、本学では取得できる資格も競合校とは差別化を図っている。競合校で取得できない資格には、国家資格である社会福祉士が挙げられる。さらに民間資格の取得支援では、ファッション販売能力検定 2 級、きもの講師 3 級、児童指導員、社会福祉主事、睡眠改善インストラクター（指定校申請予定）と独自性のある複数の資格が取得可能であり独自性がある。きもの講師 3 級は和裁、児童指導員は保育、社会福祉主事は社会福祉、睡眠改善インストラクター（指定校申請予定）は睡眠と、各分野の多岐にわたる専門性を有する専任教員を配置していることに優位性がある。特に睡眠改善インストラクターは指定校申請予定ではあるが、認定される可能性は極めて高く、取得可能な大学は女子大では全国でも同志社女子大学と本学の 2 校のみ、家政学部では本学のみとなる。

入試の受験時期について、2025 年度の日程について競合校では総合型選抜の受験回数は 1 回が 2 校、4 回と 5 回が各 1 校と差があり、本学の 2 回は中間に該当する。総合型選抜における I 期の試験は重複しておらず、合格発表日は同日、入学手続きの締め切りは本学が最も遅い日程であった。学校推薦型選抜では、I 期の試験日が 3 校の競合校と重複しているが、入学手続きの締め切りは本学が最も遅い日程であった。本学では、総合型選抜、学校推薦型選抜ともに納付金の準備期間に配慮して設定している。

学生納付金は、以下に示す通りである。

競合校名	学生納付金
実践女子大学・生活科学部生活環境学科	1,427,010
鎌倉女子大学・家政学部家政保健学科	1,421,000
川村学園女子大学・生活創造学部生活文化学科	1,328,800
東京家政学院大学・現代生活学部生活デザイン学科	1,385,660
平均	1,390,617
和洋女子大学・家政学部生活環境学科	1,418,900

単位（円）

学生納付金は競合校と比較した場合、平均よりやや高額であるが、全体では中間に位置しており、平均的な金額であるといえる。また、本学独自の奨学金については、稗方・むら竹会奨学金、フレンドシップ奨学金、卒業生等寄附金奨学金、海外学習支援奨学金、海外留学支援金の給付型や、育英奨学金の貸与型があり、私費外国人留学生向けに授業料減免の制度

も設けている。また、本学では特に就職支援（資料 16）に力を入れており、年間を通して、学科別の就職ガイダンスをはじめとする、資格・SPI 等の対策講座、就活マナー講座、企業を招聘した説明会など幅広く行っている。学科別にキャリアカウンセラー職員を配置し、学生一人一人を丁寧にサポートすることで、就職率も 100%の実績となっている。大学通信 ONLINE が 2024 年春の就職状況（2025 年 2 月 7 日現在）を調査した 2024 年 学部系統別実就職率ランキングでは、家政系で 12 位実践女子大学（95.7%）、17 位和洋女子大学（95.5%）（他競合校は圏外）と全国でも上位である（資料 17）。これら就職支援と独自の奨学金による学生支援が本学の優位性であるといえる。

【資料 16：和洋女子大学進路支援センター 2024 年度キャリアサポートガイド保護者版】

【資料 17：大学通信オンライン 2024 年学部系統別実就職率ランキング】

イ 競合校の入学志願動向等

令和 6 年 5 月 1 日時点の各競合校における入試志願者状況等は以下のとおりである。なお、公式に情報公開のない大学については、旺文社パスナビからの数値を引用した。競合校の収容定員が満たされているのは、過去 3 年間で 1 校、2 年間で 1 校であるが、いずれも 2022 年～2024 年にかけて入学者は減少している。収容定員が満たされていない 2 校については、定員充足率が 70%未満である。本学では下記 4 校より多分野の特色ある教育と資格取得または支援を展開し、学納金も中間であり、就職率も上位であることは、定員の充足は可能と考えられる。

実践女子大学・生活科学部生活環境学科							
年度	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学定員数	入学定員充足率	収容定員充足率 (R6/5/1 現在)
2022	267 名	246 名	123 名	94 名	80 名	117.5%	109.0% (353 名／324 名)
2023	250 名	237 名	100 名	89 名	80 名	111.3%	
2024	195 名	159 名	129 名	68 名	80 名	85.0%	

鎌倉女子大学・家政学部家政保健学科							
年度	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学定員数	入学定員充足率	収容定員充足率 (R6/5/1 現在)
2022	260 名	222 名	105 名	104 名	80 名	130.0%	124.7% (399 名／320 名)
2023	293 名	246 名	113 名	103 名	80 名	128.8%	
2024	157 名	124 名	99 名	83 名	80 名	103.8%	

川村学園女子大学・生活創造学部生活文化学科							
年度	志願者	受験者	合格者	入学者	入学定員	入学定員	収容定員充足率

	数	数	数	数	数	充足率	(R6/5/1 現在)
2022	99 名	81 名	75 名	12 名	40 名	30.0%	43.8% (70 名／160 名)
2023	72 名	61 名	59 名	24 名	40 名	60.0%	
2024	33 名	31 名	31 名	11 名	40 名	27.5%	

東京家政学院大学・現代生活学部生活デザイン学科							
年度	志願者 数	受験者 数	合格者 数	入学者 数	入学定員 数	入学定員 充足率	収容定員充足率 (R6/5/1 現在)
2022	108 名	89 名	85 名	17 名	80 名	21.3%	36.8% (125 名／340 名)
2023	83 名	78 名	74 名	24 名	80 名	30.0%	
2024	非公表	非公表	非公表	18 名	80 名	22.5%	※R6 年度分は未公表

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠

競合校の所在地は、実践女子大学と東京家政学院大学は東京都の多摩地区、鎌倉女子大学は神奈川県のカニ市である。データは古いが、実践女子大学が 2015 年に学生に実施した調査では、出身地は東京都が 1,223 名と最も多く、埼玉県 584 名、神奈川県 358 名、千葉県 271 名と続いており、千葉県は南関東では最も少ない。さらに、大学が公開している 1 時間以内の通学エリアは東京（新宿）、山梨県（大月）、埼玉県（大宮）、神奈川県（川崎・横浜）であり、千葉県は記載がない。東京家政学院と鎌倉女子大学は、通学時間の目安を公開しているが、千葉県からの通学時間は東京家政大学では 108 分、鎌倉女子大学では 90 分と通学には遠方であることが窺える。本学の服飾造形学科と家政福祉学科では、前述した通り千葉県内の出願者は、2022 年 56.7%、2023 年 56.9%、2024 年 56.7%、次いで東京都で 2022 年 17.3%、2023 年 23.0%、2024 年 16.6%、次いで埼玉県と茨城県が例年 12%程となっている。前述した 3 校とは学生募集地域が異なり、千葉県においては優位性があるといえる。川村女子学園大学は千葉県の我孫子に所在し、学生募集地域は重複している。しかし、本学の所在地は東京と千葉県の県界であり、千葉県内だけでなく東京都も募集地域に入る点で優位性がある。さらに、川村学園女子大学では食を重視しているが、本学は衣食住と福祉に重点をおき、幅広い学びとコース制を取り入れた専門性も確保している。従って、食に限定されないことから募集する学生層が広く、幅広い興味や関心に対応できる体制が整っている点にも優位性がある。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

設定した学生納付金の金額は、本学の教育の質を担保することを念頭に算出されており、既存学部の学生（保護者）が支払うことができる金額であること、同分野の大学との大幅な金額の相違がないことも考慮している。イで設定した競合校の学生納付金は以下のとおりである。競合校と比較した場合に、入学金、授業料は平均より低く、初年度学生納付金も前

述した通り平均に近い金額である。文部科学省の令和5年度 私立大学入学者に係る初年度学生納付金の調査では、家政学分野の平均額（定員1人当たり）（資料18）は1,411,319円であった。全国平均とも近い金額であり、妥当な設定であるといえる。

【資料18:文部科学省 令和5年度 私立大学入学者に係る初年度学生納付金等平均額（定員1人当たり）の調査結果について】

競合校名	入学金	授業料	初年度学生納付金	4年間納入金
実践女子大学・生活科学部 生活環境学科	240,000	790,000	1,427,010	4,916,010
鎌倉女子大学・家政学部家 政保健学科	380,000	640,000	1,421,000	4,817,000
川村学園女子大学・生活創 造学部生活文化学科	250,000	750,000	1,328,800	4,565,200
東京家政学院大学・現代生 活学部生活デザイン学科	250,000	770,000	1,385,660	4,792,640
平均	280,000	737,500	1,390,617	4,772,712
和洋女子大学・家政学部生 活環境学科	250,000	720,000	1,418,900	4,843,700

※川村学園女子大学と東京家政学院大学は、2年次以降の学費の記載が見つからないため、初年度学生納付金から入学金を除いた金額で算出した。

③先行事例分析

該当なし

④学生確保に関するアンケート調査

服飾造形学科と家政福祉学科の直近3年間の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数は以下の通りである。2022年から志願者数、受験者数、合格者数は減少しているが、入学者については2022年から2023年は微増と微減であり、一定の入学者を確保できている。直近3年間の入学者の平均は101名である。一方、5年間の平均入学者は服飾51名、家福74名と合計125名となるが、2026年の教育課程では保育士養成課程の廃止による入学者の減少が想定されるため、定員を110名とした。前述した通り、新学科では競合校にない特色や優位性があり、これまでの実績からオープンキャンパスへの来場者、資料請求者、探究講座の参加者への広報活動を今まで以上に強化することで入学者が確保できると考えられる。

年度	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
----	------	------	------	------

2022	307	303	291	94
2023	238	237	228	106
2024	157	153	150	104

⑤人材需要に関するアンケート調査等

直近 3 年間の本学全体と服飾造形学科と家政福祉学科の 2 学科に特化した求人数は以下の通りである。求人数はいずれの年も 6000 を超えており、2022 年以降は増加している。

年度	求人件数（全体）	求人件数（2 学科合計）
2021	32374	6317
2022	36469	7175
2023	35345	7178

前述したが、服飾造形学科と家政福祉学科の就職率は 100% である。両学科で直近 3 年間の就職先業種を以下に示す。卸売業、医療・福祉、サービス業、公務員の順に多く、業種も多岐にわたる。教育内容や取得する資格が、多様な業種に対応しており、求人件数が多いことから人材需要は十分にあると言える。服飾造形学科と家政福祉学科における業種別就職件数は以下のとおりである。

業種	2021		2022		2023	
建設業	0	0%	2	1%	5	3%
製造業	8	7%	3	2%	12	8%
電気・ガス・熱供給・水道業	0	0%	0	0%	1	0%
情報通信業	7	6%	6	5%	10	6%
運輸業、郵便業	1	1%	1	1%	0	0%
卸売業、小売業	38	35%	41	33%	50	36%
金融業、保険業	2	2%	4	2%	2	1%
不動産業、物品賃貸業	0	0%	4	3%	1	0%
学術研究、専門・技術サービス業	0	0%	4	3%	1	0%
宿泊業、飲食サービス業	2	2%	5	3%	5	3%
生活関連サービス業、娯楽業	9	8%	5	4%	6	4%
教育、学習支援業	9	7%	11	7%	1	0%
医療、福祉	15	12%	30	19%	35	17%
複合サービス事業	1	1%	0	0%	1	0%
サービス業（他に分類されない）	7	6%	7	5%	17	10%
公務	15	12%	20	12%	16	8%
上記以外	0	0%	0	0%	1	0%
合計	114		122		143	

（４）新組織の定員設定の理由

学生確保の見通しに関する分析を踏まえ、以下の理由により、生活環境学科の定員は入学定員確保に問題がないと見込まれる 110 名と設定した。前述した通り、110 名は 5 年間の平均入学者数である 125 名より低い設定であるが、保育士養成課程の廃止による入学者の減少を想定したためである。

1. 「中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向」の分析の結果、0 歳～14 歳人口では、千葉県では 2025 年 678,236 名、2030 年 630,911 名、2035 年 608,328 名と減少するが、本学近隣の主要都市（千葉市・船橋市・市川市・松戸市・浦安市・習志野市）では、2025 年 323,782 名、2030 年 304,199 名、2035 年 297,338 名と比較的に緩やかな下降になる見込みであり、入学定員確保については問題がないと判断した。

2. 競合校の分析においては、実践女子大学と東京家政学院大学、鎌倉女子大学とは学生募集地域が異なり、千葉県においては優位性があるといえる。川村女子学園大学は千葉県の我孫子に所在し、学生募集地域は重複している。しかし、本学の所在地は東京と千葉県の県界であり、千葉県内だけでなく東京都も募集地域に入る点で優位性がある。さらに、川村学園女子大学では食を重視しているが、本学は衣食住と福祉に重点をおき、幅広い学びとコース制を取り入れた専門性も確保している。従って、食に限定されないことから募集する学生層が広く、幅広い興味や関心に対応できる体制が整っている点にも優位性があると判断した。

3. 学生確保のための広報活動については、既存学科（服飾造形学科及び家政福祉学科）の 2024 年の出願者は、千葉県（56.7%）、次いで東京都（16.6%）と 80%以上を占めており、埼玉県と茨城県で 12%程度となっていることから、これら地域を主とし、高大連携の協定校や本学併設校、これまで本学に進学実績のある地方の高校等に学生募集となる広報活動を積極的に行うことを計画している。加えて、オープンキャンパスや探究講座の開催、進学相談会・大学進学ガイダンス、入試説明会も参加者を増やすことを目標に意欲的に取り組む予定である。また、新学科のホームページ、特に SNS の活用を積極的に推進するとともに、大学案内、学科案内やリーフレットの作製、新聞広告、WebDM の送信、大学の動画作成と公開を予定している。また、新学科では新たな特色を広報していくことを計画している。

服飾造形学科及び家政福祉学科の入学者については 2022 年から 2023 年は微増と微減であり、一定の入学者を確保できている。直近 3 年間の入学者の平均は 101 名であるが、生活環境学科には競合校にない特色や優位性があり、これまでの実績からオープンキャンパスへの来場者、資料請求者、探究講座などの学生募集のための広報活動を今まで以上に強化することで入学者が確保できると判断した。